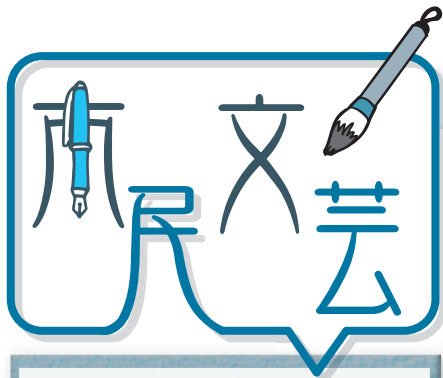




教室紹介

多久スポーツピア

中部少年サッカー



▲今年の練習初日となった1月11日、八幡神社に安全と必勝祈願をしたメンバー

サッカーに親しみ、
楽しみながら実践
を積み、磨きをかける
ジュニアチームです

『中部少年サッカー』は、多久町を中心とした西溪地区の小学生24人を所属し、厳木町の『風のふるさと』とチームを結成・強化して2年目になりました。川内野嘉昭監督ほか5人のコーチ陣が、子どもたちの技術や将来性に磨きをかけます。中部小グランドで行う基礎練習に加え、土・日は、他チームとの練習試合で経験を積み、各種大会などで優勝を狙います。

県外チームとの合同合宿やホームステイなどの交流も盛んで、『サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にする』というスポーツ精神がチームのモットーです。川内野監督は「サッカーに親しみ、楽しむことが基本。チームプレーを通して思いやりを身につけてほしい」と話され、熱心に指導。今年の練習初日は恒例の親子初蹴り大会で楽しみました。

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

シュレッターの底に溜まりしわが恋にりんごを埋めて君に届けむ
本村 則子
秋空の光の中をひよの群れ羽根ふるわせてさざめき渡る
川浪 信子
クリスマス近き会堂に集いつつ帰らぬ人の想い出辿る
栗原 瑛子
わたしにもほんわか青春のありし日を想い出し居る小春日の縁
福島那智子
花束を贈り続ける教え子も五十代なり深き絆に
尾形 節子

俳句

《楷樹句会 互選》

思い出はみな美しく銀河濃し
不二見恵美子
ころげきて我と信号待つ落ち葉
松尾 孤杖
寒晴れや残り紅葉のいとおしく
春日 泰子
夕暮れに児を呼ぶ声や風邪の声
野田キヌ子
破れ蓮のささやきありて寂深む
納富 芦風

川柳

《多久川柳会 互選》

思いやりガンの告知を秘めたまま
大谷 和
譲られて笑顔で返すクラクション
富安 正喜
先人の棚田を守る自然保護
猪ノ口昭子
自然保護鎮守の森の佇まい
松下 修
切らさない向上心が見せる技
高塚チカ子

No. 154 人権教育 と生きる

「心の画用紙」

赤ちゃんの目はなんと澄んでいることでしょう。何にも染まっていな純白な状態。目は心の鏡といえます。きれいな心が目に映し出されているのでしょうか。
安心してリラックスしている赤ちゃん嬉しかったら笑い、不安な時は泣きます。笑ったり泣いたりしている目は本当に楽しそうであり悲しそうです。それは、素直な感情や気持ちの遮るものがないから。赤ちゃんの「心の画用紙」が真っ白いから。人は誰でも赤ちゃんの時代があったのです。
大きくなるにつれ、たくさんを経

験を通し知識を得ます。「心の画用紙」が色で染まっていきました。本来、それらは人としての成長を促し、自分を含んだすべての人を幸せにする為のもの。結果として社会が豊かになるのです。
しかし、知らず知らずの間に私たちの心の中に何の根拠もない偏見や理由のない物差しが入り込んでいっていると思います。もしそのことで人を傷つけているとしたらとても悲しいことです。
地域の人や家族とふれあって人は生きる力を得ます。この社会は皆でつくられています。そのためには、他人のこと、自分のことをよくよく考えてみるきっかけや学習が必要ではないでしょうか。
日々の人間関係の中で自己を高め、そこからどんな世界が開けてくるのか。参加してみませんか、6月から始まる「心のセミナー」。安心して、居心地がいい社会にしたいものです。
多久市人権・同和教育推進協議会
会長 川内九信吾